

平成26年9月10日
相模原市発表資料



市内医療機関におけるデング熱のり患の確認（第2例）について

市内医療機関において海外渡航歴がない方のデング熱へのり患が確認されましたので、お知らせします。

1 患者

(1) 患者の概要

- 神奈川県大和市在住20歳代男性
- 海外渡航歴なし
- 9月2日 40℃の発熱、発疹、筋肉痛、咽頭痛などを発症
- 9月3日 相模原市外の医療機関を受診し、紹介状を受ける。
- 9月4日 相模原市内の医療機関を受診する。
- 9月8日 再診したところ、熱が下がらずに入院療養となる。
- 9月9日 国立感染症研究所の検査にてデング熱の感染を確認する。
- 現在も医療機関に入院中ですが快方に向かっています。

(2) 患者の行動

患者は、8月以降都立代々木公園及びその周辺には出かけておらず、8月下旬に千代田区立外濠公園及びに都立青山公園を訪れており、都立青山公園で蚊に刺されたと申し出ています。

2 本市の対応について

- 市HPにより市民への注意喚起を引き続き行います。
- 医療機関に対して、デング熱の国内感染が疑われる事例については、速やかに情報提供されるよう周知しています。

問合せ先 疾病対策課 感染症・難病対策班
電話 042-769-8260 (直通)

【参考】デング熱について

1 概要

蚊が媒介するウイルスによる疾患で、アジア、中南米、アフリカなど世界の広範な地域で流行しています。ヒト(患者)―蚊―ヒトという経路で感染するため、ヒトからヒトに直接感染することはありません。

2 症状

- ・突然の発熱で発症し、頭痛、顔面紅潮、結膜充血を伴い、発熱は2～7日間持続します。
- ・初期症状に続き、全身の筋肉痛、関節痛、全身倦怠感を呈します。
- ・一般に1週間前後の経過で回復する感染症です。
- ・まれに重症化し、出血やショック症状を発症するデング出血熱やデング症候群に移行することがあります。

3 治療法

特異的な治療法はなく、対症療法が主体となります。現在のところ、有効な抗ウイルス薬はありません。

4 予防法

国内では、ヒトスジシマカがデング熱を媒介する可能性があるため、蚊との接触を避け、刺されないようにすることが重要です。

【対応例】

- *長袖、長ズボンを着用して肌の露出をなるべく避けるとともに、虫よけ剤等を使用して蚊を寄せ付けないようにしてください。
- *屋外だけでなく、屋内においても蚊の駆除を心がけてください。
- *住宅周辺に存在する幼虫発生源(バケツに溜まった雨水等)をなくすことも、個人が平常時からできる対策の1つです。

【参考ホームページ】

厚生労働省 デング熱について

(http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/dengue_fever.html)

国立感染症研究所 デング熱とは

(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/encyclopedia/392-encyclopedia/238-dengue-info.html>)